

令和元年度市民後見人養成講座  
学事報告

1. 講座のカリキュラム

座学(45時間)

第1ターム: 成年後見の基本的な制度・理念・背景に関する学習

1. 日本の高齢社会

- ・高齢社会の現状、あり方

2. 成年後見の制度・法律

- ・成年後見制度概論・任意後見制度  
・法定後見制度・市民後見概論

第2ターム: 対象者理解や後見関連制度に関する学習

1. 対象者の理解と接し方

- ・高齢者の理解  
・認知症の理解  
・対人援助の基礎
- ・精神・知的障がい  
の理解

2. 成年後見に関連する制度・法律

- ・年金制度  
・医療・介護保険  
・生活保護制度
- ・地域福祉と権利擁護

3. 民法の基礎

- ・財産法の基礎  
(契約・後見人の権限)
- ・家族法の基礎  
(相続・遺言・遺産分割)

第3ターム: 後見実務や関連機関に関する学習および演習と討論

1. 成年後見の実務と事例

- ・後見人の実務  
・後見活動の事例

2. 後見実務の演習と討論

- ・後見実務の演習  
(事例の解説)
- ・後見事例等に関するグループ討論

3. 後見関連機関の役割と実務

- ・家庭裁判所
- ・市町村の取り組み

4. 総括的講義

- ・理解度確認テスト
- ・成年後見の課題と展望

実習(15時間)

第1～3ターム: 体験実習と演習を通じた実践的経験 (座学に並行して実施)

1. 後見実務演習

- 後見開始申立書等の作成  
(10時間)

2-b. 選択課題

- ・成年後見制度の普及・啓発活動に関する企画(5時間)
- ・成年後見に係る業務上の課題に関する検討(5時間)
- ・任意後見契約書の作成(5時間)
- ・エンディングノートの作成(5時間)
- ・遺言書の作成(5時間)

2-a. 施設体験実習

- 介護施設や障がい者施設等への訪問(5時間)

## 2. 講座の概要および履修状況

- ・ 講座の目的：地域において後見人として活動するために必要な知識と経験を習得すること
- ・ 開催期間：令和元年10月26日～令和2年2月22日
- ・ 講座内容：座学(45時間) + 実習(15時間) = 合計60時間

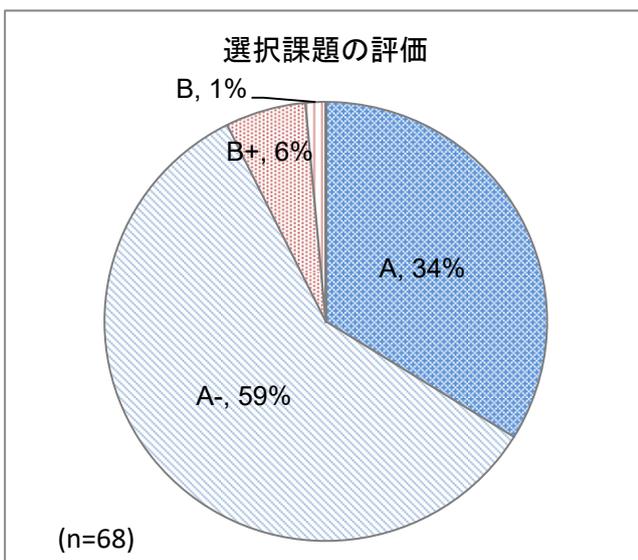
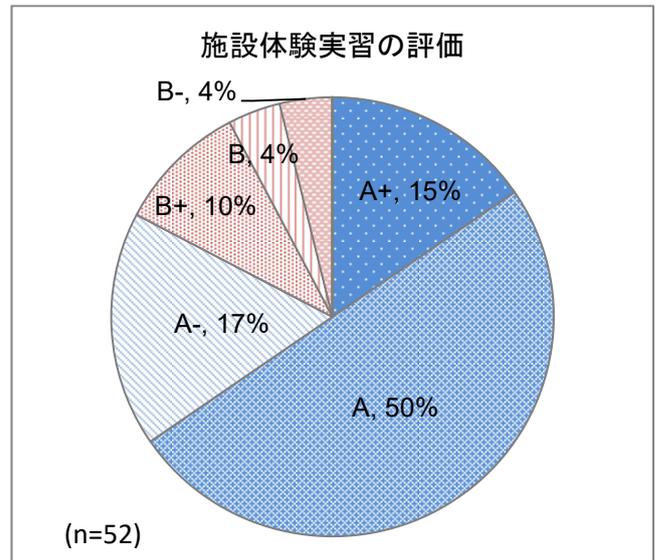
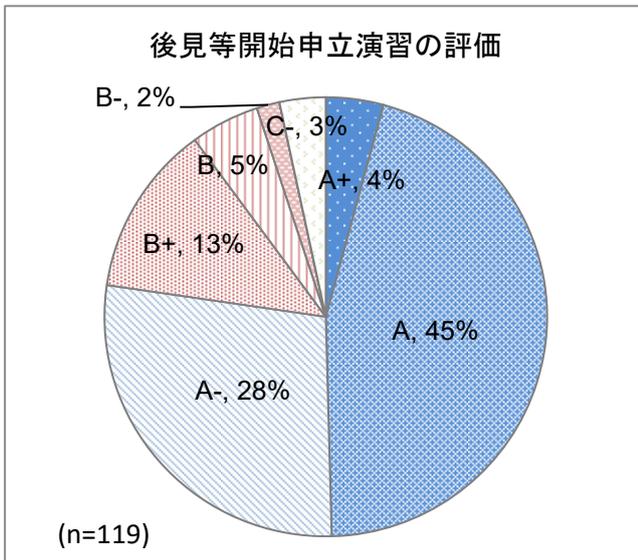
## 3. 履修状況

- ・ 受講者数：126名、 修了者数：120名、 修了率：95%
- ・ 出席率：92%

## 4. 理解度確認テストの結果<sup>1</sup>

- ・ 平均点：53.7点、 最高点：84点、 最低点：22点
- ・ 及第点(50点以上)の割合：64%
- ・ 合格点(70点以上)の割合：9%

## 5. 成果物の評価

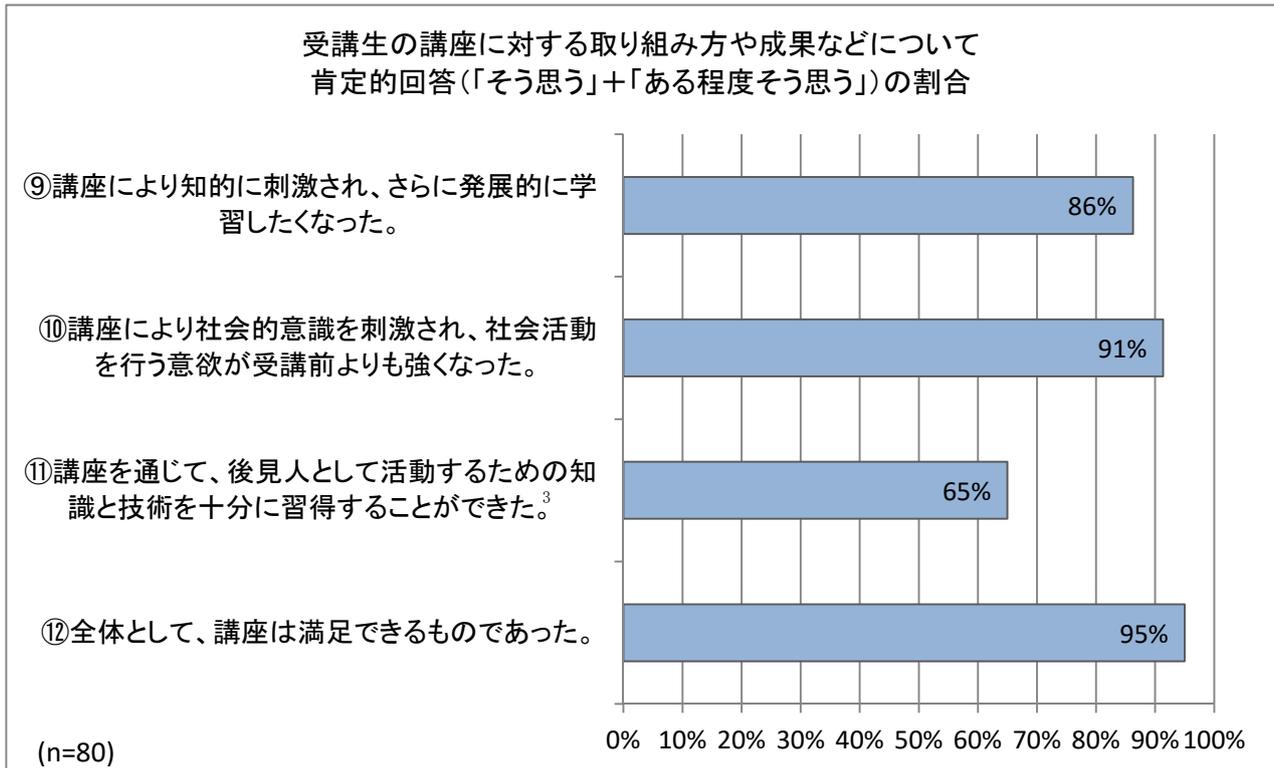


成果物は10段階で評価

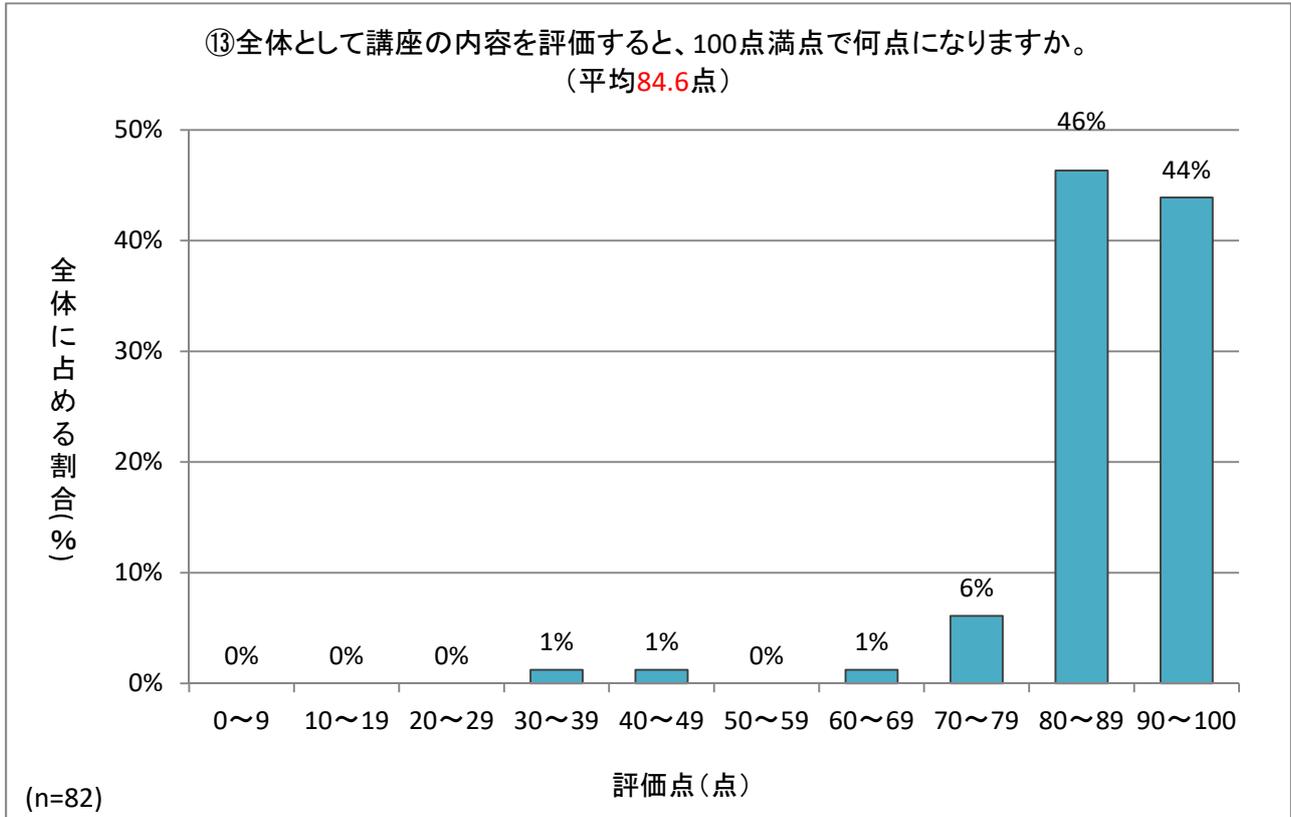
- ・ 優 = A評価 (A+, A, A-)
- ・ 良 = B評価 (B+, B, B-)
- ・ 可 = C評価 (C+, C, C-)
- ・ 不可 = D評価 (D)

<sup>1</sup> 及第点(50点以上)をとれば、理解度確認テストの修了要件は満たされる(レポート提出による救済措置あり)。他方、合格点(70点以上)は、座学を十分習得していると認められる水準のことを指す。

## 6. 講座への取り組みと評価<sup>2</sup>



## 7. 講座全体に対する評価



<sup>2</sup> 6と7の項目は、講座終了後に受講生に対して実施したアンケート調査の結果のうちの主要な部分を示したものである。

<sup>3</sup> ⑪の質問の評価だけが低くなっている理由は、講座を通じて後見人の仕事や責務の重大さを知るにつれて、少し自信を失ってしまった受講生が少なからずいたからではないかと推測される。